| 学校番号 | 315 |
|---|---|

# 令和８年度　数学科

| 教科 | 数学 | 科目 | 数演ⅡＢＣ | 単位数 | ２単位 | 年次 | ３年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | なし | | | | | | |
| 副教材等 | 新課程　チャート式　解法と演習　数学Ⅱ＋B+C（数研出版）<br>2026 短期集中ゼミ大学入学共通テスト 数学Ⅱ・B・C（実教出版） | | | | | | |

## 1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では課題に対して、自ら学ぶ意志をもって積極的に数学へ関わってください。
・多くの公式が出てきますが、内容をしっかりと理解し、暗記するだけにならないように注意してください。
・ベクトルや複素数、図形などを扱った数学ⅡＢの内容が随所に出てきます。数学ⅡＢの内容の理解が不十分な生徒は復習を怠らないようにしてください。
・授業の開始時や定期考査の時に演習した問題を提出してもらいます。考査前にまとめて解くのではなく、授業毎に学んだ内容の部分を少しずつ解くように心がけてください。わからなかった問題にはマークを付けておく等工夫し、何度もやり直せるようにしてください。
・わからない部分を放っておいて、いつの間にかできるようになっていた、ということはほとんどありません。友達に聞く、先生に聞く等、問題を解決する努力も重要です。

## 2　学習の到達目標

(1) ベクトルや複素数、図形などに関する基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
(2) 思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトルや複素数、図形などに関する数学的な見方や考え方を身に付ける。
(3) ベクトルや複素数、図形などを数学的論拠に基づいて判断しようとする態度や、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

## 3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に<br>学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ベクトルや複素数、図形などについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 | 事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトルや複素数、図形などに関する数学的な見方や考え方を身に付けている。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。 |

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元（題材）の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| | ベクトル | ○内積<br>○ベクトルと平面図形<br>○空間ベクトルの垂直<br>○座標空間における図形<br>○空間ベクトルと図形 | a：ベクトルに関する用語，記号を適切に用いることができる。<br>b：発展問題に対してベクトルの知識を用いて、それを組み立てることによって、取り組むことができる。<br>c：発展問題に対してベクトルの知識を組み立てることによって、取り組もうとする意欲がある。 | 確認テスト<br>定期考査 | ノート<br>レポート<br>定期考査 | 振り返り<br>シート |
| | 式と証明 | ○二項定理<br>○整式の割り算<br>○恒等式<br>○等式の証明<br>○不等式の証明 | a：式と証明に関する用語，記号を適切に用いることができる。<br>b：発展問題に対して式と証明の知識を用いて、それを組み立てることによって、取り組むことができる。<br>c：発展問題に対して式と証明の知識を組み立てることによって、取り組もうとする意欲がある。 | 確認テスト<br>定期考査 | ノート<br>レポート<br>定期考査 | 振り返り<br>シート |
| 1<br>2<br>3 | 複素数と方程式 | ○複素数と二次方程式<br>○解と係数の関係<br>○剰余の定理.因数定理<br>○高次方程式 | a：複素数と方程式に関する用語，記号を適切に用いることができる。<br>b：発展問題に対しての複素数と方程式の知識を用いて、それを組み立てることによって、取り組むことができる。<br>c：発展問題に対して複素数と方程式の知識を組み立てることによって、取り組もうとする意欲がある。 | 確認テスト<br>定期考査 | ノート<br>レポート<br>定期考査 | 振り返り<br>シート |
| | 図形と方程式 | ○直線の方程式<br>○円の方程式<br>○円と直線<br>○二つの円<br>○軌跡<br>○領域と最大、最小 | a：図形と方程式に関する用語，記号を適切に用いることができる。<br>b：発展問題に対して図形と方程式の知識を用いて、それを組み立てることによって、取り組むことができる。<br>c：発展問題に対して図形と方程式の知識を組み立てることによって、取り組もうとする意欲がある。 | 確認テスト<br>定期考査 | ノート<br>レポート<br>定期考査 | 振り返り<br>シート |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 三角関数 | ○三角関数の基本<br>○加法定理<br>○三角関数の合成 | a : 三角関数に関する用語，記号を適切に用いることができる。<br>b : 発展問題に対して三角関数の知識を用いて、それを組み立てることによって、取り組むことができる。<br>c : 発展問題に対して三角関数の知識を組み立てることによって、取り組もうとする意欲がある。 | 確認テスト<br>定期考査 | ノート<br>レポート<br>定期考査 | 振り返り<br>シート |
| | 指数関数と三角関数 | ○指数、対数の計算<br>○指数対数の方程式、不等式<br>○指数対数関数の最大、最小<br>○常用対数の利用 | a : 指数関数と三角関数に関する用語，記号を適切に用いることができる。<br>b : 発展問題に対して指数関数と三角関数の知識を用いて、それを組み立てることによって、取り組むことができる。<br>c : 発展問題に対して指数関数と三角関数の知識を組み立てることによって、取り組もうとする意欲がある。 | 確認テスト<br>定期考査 | ノート<br>レポート<br>定期考査 | 振り返り<br>シート |
| | 微分法と積分法 | ○平均変化率と微分係数<br>○曲線の接線<br>○極大、極小<br>○最大、最小<br>○方程式の実数解の個数<br>○定積分の計算<br>○面積 | a : 微分法と積分法に関する用語，記号を適切に用いることができる。<br>b : 発展問題に対して微分法と積分法の知識を用いて、それを組み立てることによって、取り組むことができる。<br>c : 発展問題に対して微分法と積分法の知識を組み立てることによって、取り組もうとする意欲がある。 | 確認テスト | ノート<br>レポート | 振り返り<br>シート |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度
○を付けている。